

2025 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	東アジア平和協力研究センター
---------	----------------

I．研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなうできるだけわかりやすく記述してください。

立命館大学東アジア平和協力研究センターは創設 7 年目を迎え、東アジアにおける国際研究交流をこれまで通り行くとともに、広範囲のグローバル研究ネットワーク形成、若手研究者育成、東アジア以外の地域の研究機関との研究交流活動などを展開した。特に 2025 年度は、日韓国交正常化 60 周年となる年であることから、日韓関係を主軸に活動を展開した。2025 年度は計 3 回のシンポジウム、5 回の研究会及びセミナー、3 回の講演会を開催した。

【国際シンポジウム・セミナー研究会等】計 11 回中、重要事項のみ抜粋。

○『激動の先は？韓国政治と日韓関係』（6.20）

戒厳令騒動以降、数か月にわたる政治的混乱を経て誕生した新大統領・李在明（イ・ジェミョン）政権の下での韓国政治の現状と今後の展望、さらに、こうした韓国政治の動向が日韓関係に及ぼす影響について議論を展開した。

○出版プロジェクト研究会（7.19）

若手を中心に企画した出版プロジェクトの円滑な進行のため、執筆者全員による発表会を行い、執筆内容の専門化・綿密化を図った。

○『2025 Kyoto Peace Islands Network Organization(PINO) Forum: United Nations Tolerance Program and Asia Peace Cities Diplomacy in Age of Digital Civilization』（10.14-15）

国連との連携を通じた平和外交の構想や、済州 4.3 事件と大戦期の沖縄における民間人に対する虐殺・迫害事件が二度と起こらないための地域平和構築・外交構想など、平和をめぐる国際協力に関して幅広いテーマの議論を行った。

○『トランプ時代における国際秩序変容と北東アジア』（11.14）

第二期トランプ政権発足以降の国際秩序の変容めぐり、アメリカの影響を強く受ける北東アジアの各国の対応を大きく日本、韓国、北朝鮮、中国に分けて議論し、北東アジアがいかに対応すべきかを中心に各分野の専門家による意見交換を行った。

○『日韓台経済安全保障セミナー』（12.1）

地政学的・経済的な不確実性が高まる国際情勢の中、サプライチェーンや半導体産業の安定性確保、国際競争力の向上において、日本・韓国・台湾が直面する共通の課題に対する実質的な協力について議論を行った。

○『日韓協力の新地平～経済安全保障と産業共創の現実解～』（12.8）

日韓経済関係・経済産業政策において著名な千島智伸氏を招聘し、日韓の半導体における経済協力の現実と提案について講演後、日韓協力の現場レベルの視点を視野に入れた現実的な意見交換を行った。

○『日韓国交正常化 60 周年記念 文化はいかに国際政治を媒介するか―平和と信頼の構築に向けて―』（1.15）

政治や安全保障をめぐる議論が先行しがちな日韓関係において、文化という視点から未来志向の関係を描き直そうとする試みとして、政治や外交の場で生まれる偏見や固定観念といった「壁」を文化の力で乗り越えるべく、意見交換を展開した。

○『Post-Election Japan: Domestic Politics, Northeast Asia, and Korea-Japan Cooperation』（3.13）

2026 年 2 月の衆議院選挙で大勝した高市政権が、国内政治および北東アジアや日韓協力などの地域戦略に与える影響について議論を行った。

【出版プロジェクト】

●『現代韓国の軌跡～政治・社会・国際関係』（2025 年 12 月 10 日発刊）

日韓国交正常化から 60 年が経過した現在、韓国が歩んできた政治・社会・国際関係に対する、現役と次世代研究者による読み解きを一冊にまとめ上げた専門書を出版した。

●『グローバルサウスと核―「多極化」世界における国際安全保障を再考する』（2026 年 3 月末発刊）

グローバルサウスの核と非核の経験を検討し核拡散研究・国際秩序論に新たな問題を提示、国際秩序を再考した。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2026 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割		氏名	所属	職位
センター長		中戸 祐夫	国際関係学部	教授
運営委員		渡辺 宏彰	国際関係学部	教授
		君島 東彦	国際関係学部	教授
		廣野 美和	グローバル教養学部	教授
		松野 周治	経済学部	名誉教授
		中川 涼司	国際関係学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)		駒見 一善	国際教育推進機構	准教授
		大久保 史郎	法務研究科	名誉教授
		勝村 誠	政策科学部	特命教授
		FRENCH Thomas W.	国際関係学部	教授
		伊藤 弘太郎	共通教育推進機構	客員准教授
		崔 正勲	衣笠総合研究機構	客員准教授
		張 瑛周	衣笠総合研究機構	客員助教
学内の若手研究者	専門研究員			
	研究員			
	初任研究員			
	補助研究員・リサーチアシスタント	SUH Sunghyun	国際関係研究科	博士後期課程
	大学院生			
	学振特別研究員(PD・RPD)			
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)		宋 基栄	言語教育センター	授業担当講師
		森 類臣	国際関係学部	授業担当講師
		生駒 智一	国際関係学部	授業担当講師
客員協力研究員		澤田 克己	毎日新聞	論説委員
		関 智焄	龍谷大学	非常勤講師
		馬場一輝	海上保安大学校海上保安国際研究センター	講師
		ソク イルウ	Greater China and Intercontinental, GSK	Head of Government Affairs,
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)				
センター構成員 計 21 名 (うち学内の若手研究者 計 1 名)				

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください(2026 年 3 月 31 日時点)。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	中戸祐夫	李在明政府の対北朝鮮・統一政策の新展開—関与（engagement）の観点から—	単著	2025 年 12 月	『現代韓国軌跡～政治・社会・国際関係』,晃洋書房	文京洙・中戸祐夫・生駒智一ほか 8 人	PP. 193-207
2	中戸祐夫	「多極化」の中のグローバルサウスと核	単著	2026 年 3 月	『グローバルサウスと核—「多極化」世界における国際安全保障を再考する』,有信堂高文社	中戸祐夫・崔正勲ほか 8 人	
3	中戸祐夫	北朝鮮の核と日韓安保協力	単著	2026 年 3 月	『グローバルサウスと核—「多極化」世界における国際安全保障を再考する』,有信堂高文社	中戸祐夫・崔正勲ほか 8 人	
4	中川涼司	東アジアの経済発展レジーム・福祉レジームと中国的福祉社会	単著	2025 年 10 月	『中国的福祉社会への道』,ミネルヴァ書房	徐林卉ほか	PP. 1-24
5	中川涼司	経済発展と対外関係	単著	2025 年 12 月	『新・現代中国経済論』,ミネルヴァ書房	梶谷懐/藤井大輔	PP. 177-196
6	FRENCH Thomas W.	New Perspectives on Peacetime Anglo-Japanese Military Relations, Old Friends, New Partners	共著	2025 年	Routledge	T French	
7	君島東彦	東アジア共通の安全保障への道筋	単著	2026 年 3 月	『グローバルサウスと核—「多極化」世界における国際安全保障を再考する』,有信堂高文社	中戸祐夫・崔正勲ほか 8 人	
8	崔 正勲	グローバルサウスと核—「多極化」世界における国際安全保障を再考する	共著	2026 年 3 月	『グローバルサウスと核—「多極化」世界における国際安全保障を再考する』,有信堂高文社	中戸祐夫・崔正勲ほか 8 人	
9	SUH Sunghyun	韓国政治における「世代論」とその効果—「老害」「コンデ」をめぐる比較・実証分析から—	単著	2025 年 12 月	『現代韓国軌跡～政治・社会・国際関係』,晃洋書房	文京洙・中戸祐夫・生駒智一ほか 8 人	PP. 49-67

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	中戸祐夫	NEWSLETTER No. 4	単著	2025 年 10 月	HK+ National Strategies Research Project Agency, Center for International Area Studies, HUFs		PP.8-14	無
2	渡辺宏彰	Precarious Asia: Global capitalism and work in Japan, South Korea, and Indonesia. By Arne L. Kalleberg, Kevin Hewison, Kwang-Yeong Shin	共著（筆頭著者）	2025 年	Japanese Journal of Sociology、34(1)	Arne L. Kalleberg, Kevin Hewison, Kwang-Yeong Shin	PP.234-237	有
3	渡辺宏彰	“Le Japon face aux transformations néolibérales du travail: Analyse des	筆頭著者	2025 年 4 月	Savoir/Agir 65		PP. 57-69	有

		modalités et des implications socio-économiques (1990-2024)”						
4	君島東彦	東アジアの中の立憲平和主義ー過去・現在・未来	単著	2025年7月	地平 2025年8月		PP.114-120	無
5	君島東彦	平和憲法を持つ日本でこそ非武装の市民的防衛をー主体的な取り組みが民主主義を強化する	共著	2025年8月	週刊金曜日 1533号	想田和弘	PP.24-29	無
6	松野周治	「二重の双循環」と日中経済協力：2024年8月大連シンポジウムと現地調査を中心に	共著	2025年9月	立命館大学社会システム研究所、社会システム研究 51	高屋和子ほか	PP.169-192	有
7	松野周治	書評 上田貴子・西澤泰彦編著『『満洲』在地社会と植民者』	単著	2025年12月	近現代東北アジア地域史研究会、News letter 37		PP.57-63	無
8	中川涼司	『ナタ2』から見る中国コンテンツ産業の位相	単著	2025年6月	日本中国友好協会、日中友好新聞 (2638) 2		PP.2	無
9	中川涼司	米中半導体摩擦の意外な展開	単著	2025年9月	日本中国友好協会、日中友好新聞 (2644) 2		PP.2	無
10	中川涼司	第二次トランプ政権と習近平政権の『対立と相互依存』	筆頭著者	2025年10月	新日本出版社、『経済』361		PP.122-129	無
11	中川涼司	アジアコンテンツ産業政策の中での中国アニメ産業	単著	2025年10月	日本中国友好協会『研究 中国』刊行委員会、『研究 中国』21		PP.34-44	無
12	中川涼司	中国のコンテンツ産業の発展と近年の特徴 文化・関連産業の中で高まる比重	単著	2025年10月	東京大学社会科学研究所、中国学.com		ウェブ公開	無
13	中川涼司	法律と条約の制約下で信頼回復に努め事態に即した対応を	単著	2025年12月	日本中国友好協会、日中友好新聞 (2650) 2		PP.2	無
14	中川涼司	中国とA	単著	2026年3月	日本中国友好協会、日中友好新聞 (2656) 2		PP.2	無
15	勝村誠	治安維持法の歴史と今ー「法の暴力」を許さないために	単著	2025年8月	部落問題研究所、人権と部落問題 77 (8)		PP.29-36	無
16	勝村誠	いま治安維持法を検証し記憶を継承する意味についてー治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟の活動を中心に	単著	2025年10月	治安維持法犠牲者国家賠償同盟、治安維持法と現代 2025 (秋季号)		PP.146-157	無
17	伊藤弘太郎	Toward Functioning Alignment: Future Developments of Defense Cooperation between South Korea and Japan	共著	2025年6月	Korea Institute for Defense Analyses、The Korean Journal of Defense Analysis 37(2)	小木洋人ほか	PP.183-206	有
18	伊藤弘太郎	韓国の政権交代と米韓同盟の「現代化」をどう見るか	単著	2025年8月	地経学ブリーフィング		ウェブ公開	無
19	伊藤弘太郎	韓国新政権が直面する二重の試練：軍兵力減少と中国の軍事的影響力拡大	単著	2025年10月	電通総研 経済安全保障研究センター、DCER Insight		ウェブ公開	無
20	伊藤弘太郎	ニュージーランド陸軍小隊の韓国派遣に	単著	2025年10月	笹川平和財団、国際情報ネットワーク分析 IINA		ウェブ公開	無

		見る国連軍司令部機能の新たな活用法						
21	伊藤弘太郎	The Unexpected Strong Start of the Takaichi Administration	単著	2025 年 12 月	The Korean Association of International Studies 、 KOREA ON POINT		ウェブ公開	無
22	伊藤弘太郎	国際関係研究所 連続講演会 共通テーマ:激動の北東アジア情勢を読み解く	単著	2026 年 3 月	東洋英和女学院大学国際関係研究所、 国際関係研究 6		PP.11-33	無
23	伊藤弘太郎	同盟の現代化をめぐる米韓の攻防	単著	2026 年 3 月	中曽根平和研究所、韓国・北朝鮮研究会コメンタリーNo.17		ウェブ公開	無
24	崔 正勲	歴史小説『野戦列車』を通じてみたオバマ政権の対北政策に対する朝鮮民主主義人民共和国の認識とその含意	単著	2025 年 5 月	立命館大学コリア研究センター コリア研究 13		PP.1-14	有
25	SUH Sunghyun	日韓政治における新規参入の環境考察：政治的機会構造の分析枠組みを用いた政党レベルの日韓比較分析	単著	2025 年 8 月	立命館大学アジア・日本研究所、立命館アジア・日本研究学術年報 6		PP.18-36	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	中戸祐夫	日米韓安保協力の展望	2025 年 4 月	韓国外語大学 国際地域研究センター＋国家戦略事業団・北海道大学公共政策大学院、場所：北海道大学	李ギテ、金容民、池ヒョンジュ直美、伊藤弘太郎、金ボムス
2	中戸祐夫	Causes and Consequences of World War II in the Pacific: A Japanese view	2025 年 8 月	The 5th East Asia Peace Forum: World War II Reflection and Perspectives Venue: Taipei Grand Hotel, Taiwan	
3	中戸祐夫	Kyoto Peace Diplomacy and Japan-Korea Summit	2025 年 10 月	2025 PINO (Peace Island Network Organization) Forum: United Nations Tolerance Program and Asia Peace Cities Network in an Age of Digital Civilizations Venue: 衣笠キャンパス 洋々館	
4	中戸祐夫	変動する国際秩序の中での日韓関係	2026 年 3 月	2026 韓日平和統一フォーラム 場所：ホテルオークラ京都	
5	渡辺宏彰	Japan's strategies to strengthen supply chain resilience: The case of semiconductors	2025 年 12 月	KIEP Symposium, ROK-Japan-Taiwan Economic Security Dialogue Venue: GIS NTU Convention Center B1 Alexander Hall	
6	君島東彦	Six Faces of Article 9: Japan's Constitutional Pacifism and the World Order	2025 年 5 月	The Evolution of the Constitutional "Pacifist Principle" in Italy and Japan after the War in Ukraine Venue : University of Milan	
7	君島東彦	憲法平和主義の展開としてのアジア版 CSCE/OSCE 構想——東アジア共通の安全保障の枠組みをつくる	2025 年 5 月	2025 年度日本平和学会春季研究大会 場所：大阪いばらきキャンパス	
8	勝村誠	在日朝鮮人集住地域「ウトロ」の居住権闘争と現況	2025 年 10 月	東亜大学校・立命館大学 2025 年国際共同研究シンポジウム 場所：韓国 東亜大学校	
9	勝村誠	ウトロ平和祈念館所蔵史料の現況把握とデータベース化	2025 年 11 月	第 3 回国史編纂委員会史料研究国際コロキウム「近現代における日本列島—朝鮮半島間の人の移動と定住に関わる史料の調査および研究」 場所：同志社大学	
10	FRENCH	Conflict and Empire in	2025 年 7 月	Conflict and Empire in East Asia to	

	Thomas W.	East Asia to 1945 in Heritage, Memory, and Museums		1945 in Heritage, Memory, and Museums Venue : Kyoto Museum for World Peace	
11	FRENCH Thomas W.	Peacetime Anglo-Japanese Military Relations: Old Friends, New Partners	2025 年 9 月	Daiwa Anglo-Japanese Foundation Seminar Venue : Daiwa Anglo-Japanese Foundation, London	
12	FRENCH Thomas W.	Revisiting the History of British Commonwealth Forces in Japan (1945 to 1957)	2026 年 2 月	Modern History Research Centre Seminar Venue : University of Winchester	
13	伊藤弘太郎	日米韓安保協力の展望	2025 年 4 月	韓国外語大学 国際地域研究センター＋国家戦略事業団・北海道大学公共政策大学院、場所：北海道大学	李ギテ、金容民、池ヒョンジュ直美、中戸祐夫、金ボムス
14	伊藤弘太郎	日米韓連携の機会と課題	2025 年 6 月	2025 Global Korea Forum - Japan Seminar 場所：東京大学	
15	伊藤弘太郎	ROK's Pride and Confidence for Burden-Sharing with the US	2025 年 7 月	28th World Congress of Political Science, Venue : International Political Science Association, Seoul	
16	伊藤弘太郎	東ティモール PKO と日韓防衛協力	2025 年 7 月	28th World Congress of Political Science, Venue : International Political Science Association, Seoul	
17	伊藤弘太郎	韓国新政権を取り巻く安全保障上の課題 人口急減と米韓同盟の揺らぎにどう対応するのか	2025 年 10 月	中曽根平和研究所	
18	伊藤弘太郎	韓国の国防体制	2025 年 10 月	世界政経調査会国際情勢研究所	
19	伊藤弘太郎	地域安全保障と平和構築に向けた多国間協力 -東ティモール PKO における日韓協力の教訓-	2025 年 11 月	日韓国交正常化 60 周年国際学術会議 - 共生と繁栄に向けた歩み - 場所：韓国 ロッテホテルソウル	
20	伊藤弘太郎	東経 124 度をめぐる日韓と中国 共通のシーレーンをどう守るのか	2025 年 12 月	2025 年日韓関係セミナー 場所：韓国	
21	伊藤弘太郎	韓国防衛産業振興策から得られる教訓と課題	2025 年 12 月	インド太平洋先端技術セミナー 場所：東京大学	
22	崔 正勲	地政学から見る国際秩序変容とグローバルサウスへの示唆	2025 年 11 月	立命館大学・吉林大学・東国大学 日中韓 3 大学シンポジウム 〈トランプ時代における国際秩序変容と北東アジア〉 場所：衣笠キャンパス	
23	張 瑛周	Japan-DPRK relations in the post-Cold War era and the abduction issue: diplomacy between victims?	2025 年 7 月	28th World Congress of Political Science, Venue : International Political Science Association, Seoul	
24	張 瑛周	Stagnation of Japan-North Korea relations: A study on the Asymmetry of Japanese Sanctions' Imposition and Lifting	2025 年 11 月	Asia Pacific Conference 2025 Venue: APU, 別府	
25	SUH Sunghyun	非理性・非合理で見つめなおす日韓の民主主義の在り方	2025 年 9 月	北東アジア学会第 31 回学術研究大会 場所：長崎県立大学佐世保校	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	National Archives of Hungary との面談会	衣笠キャンパス	2025 年 5 月	10 名	

2	朱豪英氏講演会「日韓国交正常化 60 周年、 迷惑と気配り」	衣笠キャンパス	2025 年 5 月	40 名	
3	朴振氏 日韓国交正常化 60 周年記念講演会 「 Korea-Japan Partnership for the Future: Economy, Security, Technology and Culture」	衣笠キャンパス	2025 年 5 月	100 名	
4	激動の先は？韓国政治と日韓関係	衣笠キャンパス	2025 年 6 月	30 名	立命館大学コリア研究センター
5	出版プロジェクトの研究会	朱雀キャンパス	2025 年 7 月	13 名	
6	第 9 回 日韓安全保障戦略対話	東京	2025 年 9 月	25 名	国際政策研究院 韓国防衛外交協会 韓国国防 外交協会
7	2025 Kyoto Peace Islands Network Organization (PINO) Forum	衣笠キャンパス	2025 年 10 月	20 名	World Associations for Environmental, Social, and Governance(WAESG)
8	講演会「How to achieve a denuclearized peace regime on the Korean Peninsula in the Lee Jae-myung era?」	衣笠キャンパス	2025 年 10 月	25 名	
9	3 大学シンポジウム「トランプ時代におけ る国際秩序変容と北東アジア」	衣笠キャンパス	2025 年 11 月	25 名	立命館大学コリア研究センター 吉林大学東北アジア研究院、東国大学北韓学 研究所
10	日韓台経済安全保障セミナー	台湾	2025 年 12 月	16 名	対外経済政策研究院(KIEP)、国立政治大学 (NCU)
11	日韓の気候・エネルギー協力における北朝 鮮を取り 込む事業推進の可能性	衣笠キャンパス	2025 年 12 月	5 名	
12	日韓協力の新地平 ～経済安全保障と産業共創の現実解～	衣笠キャンパス	2025 年 12 月	10 名	
13	Cultural Exchange for Peace—文化交流 は、国と国の距離をどう縮めるのか	衣笠キャンパス	2026 年 1 月	70 名	
14	Post-Election Japan 国内政治、北東ア ジア情勢、そして日韓協力の展望	朱雀キャンパス	2026 年 3 月	30 名	
15	「2025 年の朝鮮 政治・外交・軍事」	朱雀キャンパス	2026 年 3 月	6 名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	中戸祐夫	ホン・ソクジェ「李大統領、反日憂 慮払拭 過去史以外協力空間はとて も広い」『ハンギョレ』(韓国語) 2025 年 6 月 13 日	『ハンギョレ』(韓国語) 2025 年 6 月 13 日	2025 年 6 月 13 日
2	中戸祐夫	ホン・ソクジェ「過去史・領土問題 強硬『女安倍』 日韓未来協力試験 台」	『ハンギョレ』(韓国語) 2025 年 10 月 22 日	2025 年 10 月 21 日
3	中戸祐夫	Japan, South Korea leaders vow to foster 'future-oriented' relations Japan Prime Minister Takaichi says first summit with Lee was 'warm' and 'enjoyable' (interview)	『Nikkei Asia』(英語) 2025 年 10 月 30 日	2025 年 10 月 30 日
4	中戸祐夫	Academic Exchanges with Korea at Ritsumeikan University: Institutional Initiatives and Personal Reflections	日韓国交正常化 60 周年記念 第 18 回日韓研究 者交流協会シンポジウム／日本学術振興会 日 韓研究者交流協会	2025 年 9 月 26 日～2025 年 9 月 27 日
5	中戸祐夫	Between History and Strategy: The Future of Japan-Korea Relations in the U.S.-ROK-Japan Triangle	Kyoto Consortium for Japanese Studies / 同志社大学	2025 年 11 月 11 日
6	渡辺宏彰	China's development strategy and technological innovation: Achievements and challenges	4th International Synology Symposium, Diplomatic Academy of Vietnam, Hanoi	2025 年 10 月 23 日
7	渡辺宏彰	US-Sino conflict and supply chain resilience: The case of semiconductors in China and Japan	N/A	2026 年 2 月

8	君島東彦	憲法9条と平和！	MBS ラジオ・立命館 presents Social Impact Academy	2025年8月4日～2025年8月8日
9	FRENCH Thomas W.	Appearance on 'The East Angle' Podcast	University of East Anglia 'The East Angle' Podcast	2025年11月23日
10	伊藤弘太郎	東アジア情勢と韓国外交安全保障政策を読み解く	2025年度連続講演会「激動の北東アジア情勢を読み解く」 東洋英和女学院大学大学院	2025年5月17日
11	伊藤弘太郎	日本の防衛産業をどう強くするか、パネルディスカッション 「安全保障」中核に連携拡大を シンポジウム「日本を強くする防衛産業」レポート ㊦	産経新聞 2025年7月12日	2025年7月12日
12	伊藤弘太郎	10年ぶり防衛相訪韓の背景は 伊藤弘太郎・法政大特任准教授に聞く	朝日新聞 2025年9月9日	2025年9月9日
13	伊藤弘太郎	Trump 2.0 and the U.S.-South Korea alliance Changes in U.S. policies and Seoul's new government test security ties	The Japan Times (英語) 2025年9月16日	2025年9月16日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月

7. 科学研究費助成事業（科研費）						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	廣野 美和	中国投資と東南アジア弱者層の人間の安全保障：グローバル中国研究論の推進	国際共同研究加速基金(海外連携研究)	2024年9月	2028年3月	代表
2	廣野 美和	一帯一路と世界秩序：沿線国の総選挙から見る対中観の変容	基盤研究(C)	2021年4月	2026年3月	代表
3	駒見 一善	中国大陸からの人的移動が中華圏の対中認識に与える影響に関する研究：台湾を中心に	基盤研究(C)	2022年4月	2026年3月	代表
4	森 類臣	(ポスト) ソ連と朝鮮半島の戦争体験の継承：記憶、表象、感情のポリティクス	基盤研究(B)	2025年4月	2029年3月	分担
5	森 類臣	日韓国交正常化後の社会・文化領域における日韓諸関係に関する基礎的研究	基盤研究(B)	2024年4月	2028年3月	分担

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	中戸 祐夫	「日韓修交 60 周年と北東アジア不確実性時代の日韓協力策の研究」	韓国国際交流財団	2024年12月	2025年12月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国